

2021

長く使うための変化するベビーバウンサー

Multi-functional Cradle

AD22 鈴木 理恵子
指導教員 谷上 欣也

1. 研究目的

赤ちゃんが生まれると揃えなければならない物が多く、とてもかさばってしまう。特にまだ若い夫婦だと経済的に余裕がないため、居住空間が限られている中で使用期間が短くかさばるとなると、せつかくの育児の負担を減らす為の製品も違う形でまた負担となってしまう。

そこで今回の研究では、限られたスペースでも邪魔にならず長期間使用できる製品の形を探る。

2. 調査と分析

ベビー用品と言えどその種類は多い為、その調査対象をベビーバウンサーに限定した。ベビーバウンサーとは、ゆりかごとベビーベッドの役割を兼ね備えた子育ての負担を減らすことを目的とした製品である。日本の市場で目立つようになったのはここ十数年である。現在市販されているベビーバウンサーはどれも同じ様なデザイン・機能のものが多い。

ベビーバウンサーは赤ちゃんの感覚に合えばそこで大人しくしていてくれる為、とても便利なものである反面、その使用期間は長い物でも3歳前後と短い。赤ちゃんから大人まで使えるという製品もあるが、子供がそのまま使い続けたり大人が使用する可能性は低い。

ベビーバウンサーの問題点

- ・使用期間が短いため購入の際に悩むユーザーが多い。
- ・中古店に沢山売られており「買いたい」・「持っていたい」とユーザーに思わせることが出来ない。
- ・素材が金属やプラスチックが主で無機質。

3. コンセプトの立案

「ロングライフ化」

調査の結果最も多く見られた問題点である使用期間の短さを今回の提案に設定する。

4. デザイン展開

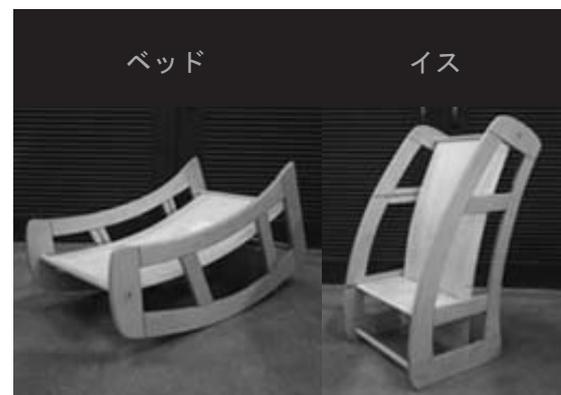
使用期間の長期化を図るために、まずベビーバウンサーとしての機能とベビーチェアの機能をつける事を考えた。そのうえで構造は簡単にする。使用するのは赤ちゃんだが、使い勝手に大きく左

右されるのは子育てをしている母親であることから、母親への負担を軽減することを重視した。

ベビーバウンサーとしてもベビーチェアとしても使えなくなった後、家庭で使い続けられるように、小物などを置いておけるラック機能を提案する。ベビーバウンサーとベビーチェアの機能を持つ製品は実際にあるが、大きくなった子供や大人が使う可能性は低いという事が調査でわかっている。そこで、誰でも使えるラックにするという提案に至った。

素材は木材を使用する。金属やプラスチックに比べて木材は柔らかく温かみがあり、他の家具とも馴染みやすいのでロングライフ化に適している。

5. 完成図



6. 結論

検証をしたところ、ベッドから食事用の椅子になり最終的にラックとして使用できるという仕組みについては、便利、買いたいという意見をいただけた。一方、形状に関しては、ベッド時に赤ちゃんが寝返りを打ったとき落ちそう、食事をさせる際に椅子にしたとき枠部分が邪魔になる、子供が歩くようになったとき掴まって倒して壊れないか、壊れて怪我をしないか心配という意見もいただけた。今回の検証結果から形状的、視覚的に安全性の向上を図る必要があるという事がわかった。

7. 参考文献

ベビーバウンサー 口コミ 赤ちゃん快適はどれ？
<http://babybouncer.dreamlog.jp/>